

希望の道標

vol.36

取材・文／山下久猛
撮影／守谷美峰

世の中には未知の職業が たくさんあります。 自分と対話しながら、自分だけの 使命を見つけてください。

プランナー／玉谷祥子

私が2012年に新卒で就職したLITALICOという会社は、「障害のない社会をつくる」というビジョンの下、様々な事業を展開しています。入社4年間で、発達障害のある子どもの親向けのポータルサイトのリニューアル、発達障害児向けの教室の指導員や新規店舗立ち上げ、子育て情報メディアの新規立ち上げなどに携わってきました。子育てサイト立ち上げ後は様々な工夫を施し、今では毎月数百万の人が訪れてくれるまでに成長しています。「社会課題をビジネスの力で解決していくこと」が私が生涯をかけて取り組みたいライフワークなので、この会社で仕事ができること自体に大きなやりがいと喜びを感じているんです。

こんな私ですが最初から社会的事業に興味があったわけではありません。高校生の頃の夢は専業主婦でした。金沢の進学校に通っていた当時の目標はより高い偏差値の大学に進学すること。職業選択についてはほとんど考えておらず、選択肢は医者、弁護士、教師、研究者の4択くらい。しかもそのどれにもなりたいたとは思えませんでした。母に相談すると「専業主婦でもいいんじゃない？」と。母も祖母も専業主婦で幸せそうに暮らしていたのでそれもいいかなと思ったんです。そのためにはいい大学に入って素敵なお嬢さんを探さなきゃと(笑)、東京大学を目指し猛勉強を始めました。でも結果はあっさり不合格。

第一志望の東大に落ちてしまった私はしばらく茫然自失状態に。浪人することも考えずごく尊敬していた塾の先生に相談したところ、「玉谷にはきっと天から与えられた使命がある。今はそれが見つかってないだけ。早く見つけるためにどの大学でもいいから入学した方がいい」と助言してくれたので、他に受かっていた上智大学に入学することにしました。さらにその先生は10冊ほどのビジネス書を紹介してくれました。そのとき初めて「ビジネス」という世界があることを知り、なんだかとてもワクワクしてしまって、漠然とここに自分の使命があるかもしれないと感じました。

大学に入学後は社会学を学んだことで社会課題の解決に興味をもち、ビジネスコンテストを主催する学生団体での活動を通して多くの起業家、経営者の方と出会いました。そして当時アメリカで流行し始めていたソーシャルビジネスという言葉に出会ったとき、「社会課題をビジネスのスキームを使って解決する」ことこそ、私に与えられた使命かもしれない！とピンときたんです。そして就活の過程で知り合った当社の代表が私のやりたいことをまさに実践しており、そのビジョンに大いに共感したので、当時まだ200人ほどのベンチャーでしたが、他の大手企業の内定を辞退して入社。その選択は間違っていなかったと今でも思っています。

私自身の経験から高校生の皆さんには、社会には自分の知らない職業が山ほどあるということをもっと知ってほしいと思っています。だから今、将来なりたい職業がイメージできなくても全然大丈夫。ただ、今この瞬間、自分が何に興味があるのかということを常に自分に問い、いろんな人の話を聞き、アンテナに引っかかったことを真摯に突き詰め、全力で取り組んでみてほしい。そうすれば、私のように高校時代には想像もしなかったけれど、自分に合った、このために自分は生まれてきたんだと使命感をもって取り組める職業にきっと出会えると思いますよ。

Sachiko Tamaya

たまや・さちこ

1989年石川県生まれ。金沢大学附属高等学校、上智大学総合人間科学部社会学科卒。就職活動では将来ソーシャルビジネスに携わるため、ビジネスの素地を身に付けようと大手IT企業の採用試験を受け、数社の内定を得る。しかし東日本大震災を機に、今本当にやりたいことをやろうと内定を辞退し、2012年に株式会社 LITALICOに入社。以来、発達に気になる子どもをもつ家族の情報共有プラットフォーム「ふぁみえる」(現・「LITALICO発達ナビ」)のリニューアル企画と運営、発達障害児の教育指導員、教室の新規立ち上げなどを経験。2014年、企画編集ディレクターとして、新サービスConobieの立ち上げを担当。現在はインターネット事業部チーフプランナーとして主にConobieの広告営業・広告ディレクション等を担当している。
Conobie→<https://conobie.jp/>